

平成 21 年 3 月期業績と平成 22 年 3 月期業績予想に関して

1. 平成 21 年 3 月期業績（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

営業収益は、景気悪化の影響で倉庫部門の取扱数量が減少したこと等により前期比 8 億 7 千 4 百万円（2.2%）減の 392 億 3 千 7 百万円となりました。営業原価は技能系職員の不補充や外部委託業務のグループ内製化等の施策により効率化が進み、前期比 10 億 4 千 9 百万円（2.8%）減の 369 億 9 千 5 百万円となりました。この結果、営業総利益は前期比 1 億 7 千 4 百万円（8.4%）増の 22 億 4 千 1 百万円となりました。販管費及び一般管理費は前期比 1 億 1 千 8 百万円（7.2%）減の 15 億 2 千 1 百万円となりました。

以上の結果、営業利益は前期比 2 億 9 千 2 百万円（68.4%）増の 7 億 2 千万円、経常利益は前期比 1 億 8 千 7 百万円（49.6%）増の 5 億 6 千 5 百万円となりました。また、前期は遊休土地の売却益があったため、税金等調整前当期純利益は前期比 3 億 2 千 2 百万円（38.7%）減の 5 億 9 百万円、当期純利益は前期比 1 億 3 千 3 百万円（38.3%）減の 2 億 1 千 5 百万円となりました。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期	39,237	△2.2	720	68.4	565	49.6	215	△38.3
20 年 3 月期	40,112	2.1	427	△22.1	378	△25.0	349	108.8

2. 平成 22 年 3 月期連結業績予想（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

国内経済は世界的な景気悪化の影響を受け昨年同期より大きな落ち込みを見せており、貨物需要は今後も低調に推移することが予想されます。

当社グループにおいては、本州地区での営業強化による売上の拡大や、女性スタッフ登用による「さくらスマイル引越隊」の本州への展開等により減収をカバーするとともに、グループ各社の役割を明確にし業務の効率化を図ることでコストを削減し、利益確保を図ってまいります。

このような企業活動を積極的に推し進め、当社グループは通期の業績目標として、売上高は前連結会計年度比 0.7%増の 395 億円、経常利益は前連結会計年度比 23.7%増の 7 億円、当期純利益は前連結会計年度比 39.1%増の 3 億円を予想しております。

尚、札幌通運(株)において、過去において発生した退職給付会計導入時の変更時差異や年金資産運用成績の悪化に伴う数理計算上の差異の償却負担を一掃し、かつ将来の退職給付費用を軽減することを目的として、今年度中に企業年金基金から確定拠出年金への移行を検討しております。然しながら、現時点では制度の概要、移行の時期等が未確定であるため、平成 22 年 3 月期業績予想にはこれによる影響は考慮しておりません。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第 2 四半期累計期間	19,500	△1.7	450	60.4	350	60.1	130	33.4
通期	39,500	0.7	900	24.9	700	23.7	300	39.1

以上